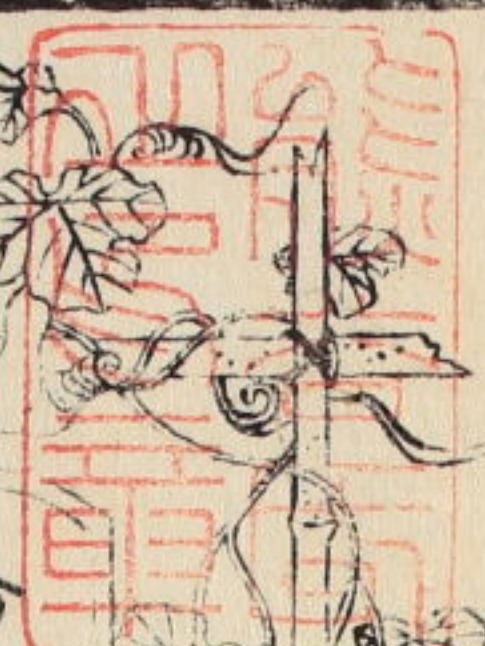


繪本曲豆臣勲功記

三編

四





繪本豊臣勲功記三編四之卷

目錄

船江兩將受謀夜設西陣

屬船江城攻

捕再用謀夜設佐久間陣

屬同發本陣

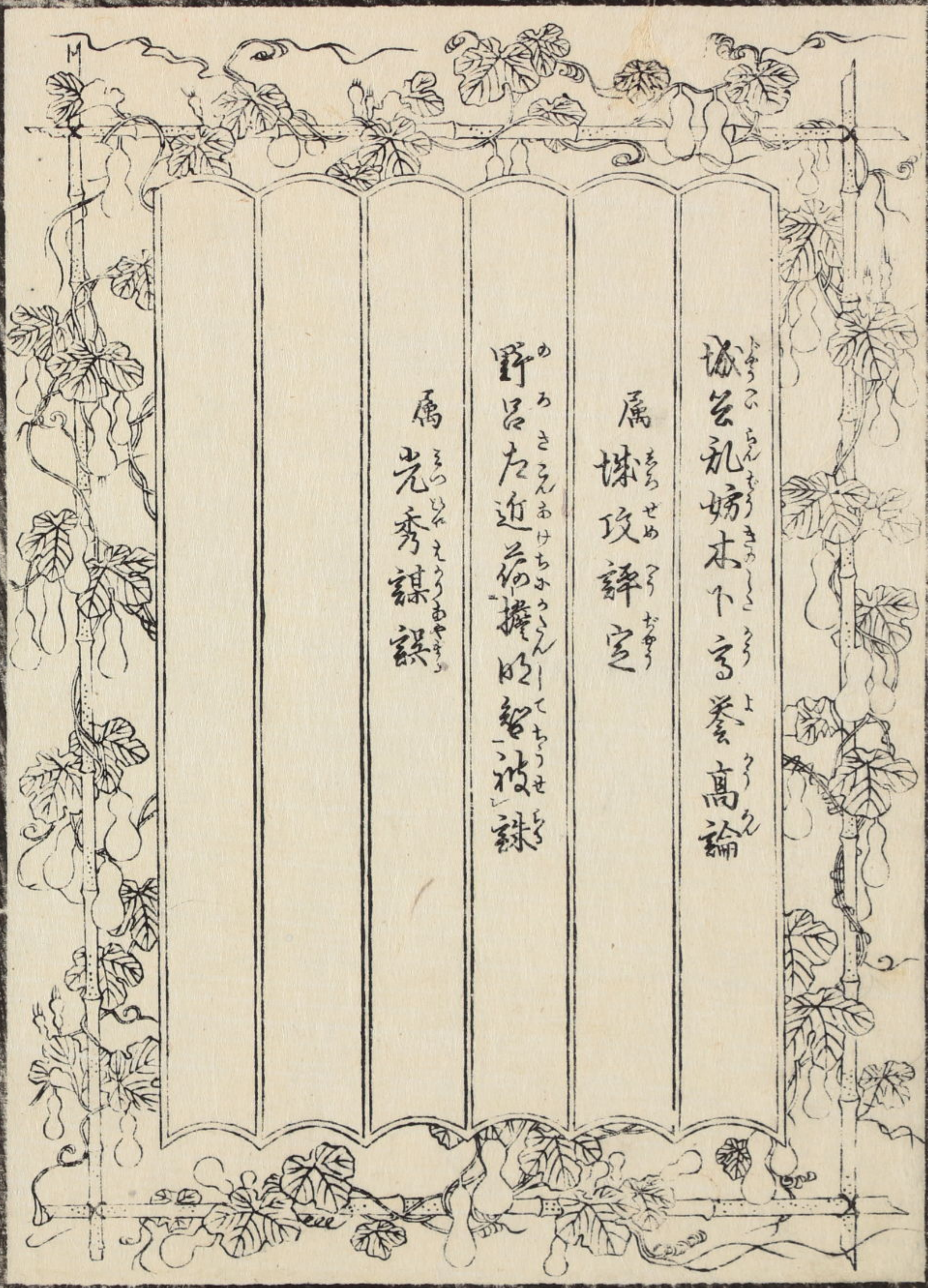
豊臣本陣

城は孔坊木下高輪

属 城攻詳定

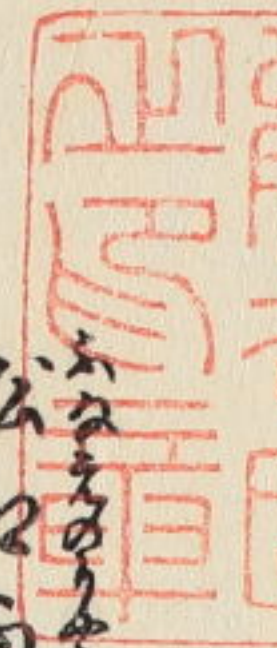
野呂左近衛権助智波隼

属 光秀謀誤



繪本豊臣勲功記三編卷之四

江戸 櫻澤堂山 編輯



船江両将受謀夜設西陣一属 船江城攻

大河の水ハ堰止る小満やま」と。然バ今織田の陣中ハ大軍跡秀

吉ありとひとども。楠正具よく謀りて。是を殺んとみく。バ不得小智あり

光秀も一遭ハ欺るまで戦んと。向ハと更小敵なき。バ。憫もく。軍を収

つりしが。遂小を夜ハ曉ふ。を。然バ。小安保中勢。安居新九郎。以。軍ハ

甲夜より。秋撃の調後。つ。も。時刻。方。僅や。と。待。バ。小。夜。も。寅。を。と

深。彌。ま。バ。遠。く。を。あ。ら。じ。と。諸。衆。小。指。揮。な。し。是。探。ま。る。か。と。こ。こ。を。あ。れ

桂。瀨。山。の。麓。小。當。り。て。暗。号。の。炮。声。响。く。と。其。が。ま。り。又。楠。の。志。を。せ。る

る。ぞ。殺。て。出。よ。と。い。ふ。より。早。く。魁。隊。の。士。百。騎。を。う。り。喊。せ。つ。ら。り。て。音。を

せりしを思ひのほ小信長の本陣を發動させ、殿后運送七百騎を引
 率し、關路山の東を徑く。西方より廻り、寺井の處小陣を執り、儀
 田勢を欺引出せしむ。こゝを殿と計り、備又城攻の門を以て陣より
 の指揮せしむ。夜段の小心せしむるも、自軍は大勢ありと相見え、驕
 がちるるを軍多く、甲亥のうちに防意せしむ。五更のころに深く急り
 陣を注ぎ、士過半に勝り、中、小籠て西方の攻に、氏家常陸入道、全安
 藤伊賀守の陣、所、寺井の宿あり、由へ諸將の陣と、いふ際、余
 程隔りしう、いよく、悩まざるべしとて、大急り將率をも、小熟睡して
 ぞ、立たり、舟の急士を、秘より、案内のよく知り、いづきの陣まれば、敵
 易きと、うらん、はれと、遠而、船、所、小、潜、投て、南ひるる。氏家安孫、が、陣
 不こそ急過、ふらん、なる、こと、介、候の者、告、く、又、段、投、と、い、ふ、候

小寺井と當て、葛地、小、推進せ、七百余人と、二隊と、なり、安居、影、九、師、の、安
 孫、が、陣、小、籠、り、安、保、中、勢、の、氏、家、が、陣、小、推、上、せ、く、西、隊、一、時、小、島、流、を
 軍、せ、南、に、方、より、強、悩、を、互、相、い、う、小、も、大、勢、は、像、く、進、退、を、と、く
 吹、起、け、し、む、氏、家、安、孫、の、急、軍、の、寐、惑、耳、小、口、方、より、喊、を、流、れ、し
 声、を、听、慌、忙、を、發、聲、せ、し、把、り、は、も、は、あ、む、と、も、せ、虚、小、して、強、出、ま、り、敵、を
 大、く、も、馳、投、く、こ、め、つ、け、も、せ、ず、雜、起、擡、起、勢、ひ、極、く、揮、き、り、る、小、だ、死
 人員、無、の、宛、小、大、漢、せ、し、磯、畔、の、眞、雜、を、紊、れ、と、か、り、あり、氏、家、安、孫
 の、西、將、の、い、づ、も、同、ふ、る、勇、士、を、ら、う、不、意、を、發、して、自、軍、注、ぎ、士、右、横
 を、横、小、籠、り、の、こ、い、う、小、嚴、しく、指、揮、を、せ、し、も、耳、小、も、容、を、連、惑、ふ、あ
 將、い、う、小、も、倣、術、を、く、ま、づ、ら、陰、を、か、つ、俾、く、遠、を、考、途、と、戦、ふ、と、り、氏
 家、老、堂、轉、を、般、若、之、助、勇、を、奮、ふ、く、進、來、り、敵、を、こ、こ、四、遭、や、と、退、ひ

豊臣記三編卷之四

楠正具

謀計を

定めて

氏家安藤の

陣へ

夜襲す



捲つて安保ヶ驛率走を以て、磯へく、赤ら島、小般若之助、頼朝と、
 是眼、暝を、擇得ざるを、津川、水と、名、罵、薙、般若之助と、搦、せ、布、
 終、小、首、を、ぞ、毀、ら、り、る。左、右、を、ら、り、ち、西、方、の、陣、を、ら、り。版、沼、市、橋、堀、を、
 かん、と、加、藤、の、軍、を、出、来、り。夜、も、又、曉、を、かん、と、せ、か、と、小、般、若、の、勢、を、
 ま、で、と、思、ひ、の、信、小、夜、敵、一、果、せ、ま、退、け、と、一、同、小、人、數、を、纏、め、回、道、を、
 船、に、當、り、て、ぞ、退、返、し、ぬ。加、藤、の、名、軍、遠、跡、へ、喚、斗、ん、で、馳、若、し、も、敵、
 と、り、つ、は、一、人、も、つ、ん、を、自、軍、の、名、士、を、展、換、を、ま、た、戦、死、の、軍、百、五、十、余、人、
 負、れ、率、之、百、余、人、敵、を、兼、ふ、ま、た、十、四、五、人、の、さ、り、ら、り、も、口、惜、ま、こ、こ、
 謂、ま、り、ら、り、。懸、断、を、な、せ、と、も、返、ら、ね、ば、遠、由、と、本、陣、へ、は、伸、し、ら、り、小、信、長、
 小、も、諸、將、も、遠、跡、を、听、く、情、き、備、こ、そ、本、陣、の、磯、石、大、地、を、ら、り、植、り、
 け、ま、と、肝、を、執、り、て、驚、嘆、を、然、と、も、信、長、昨、夜、の、款、敵、を、く、ま、く、も、朽、憾、く、

思、る、ま、や、大、軍、を、當、敵、て、一、搦、小、攻、臨、せ、と、數、圍、く、余、せ、あ、る、を、本、陣、新、め、て、
 言、仕、ま、ら、り、。昨、夜、の、敵、の、等、閑、を、ら、り、。形、を、智、謀、あ、る、者、は、船、に、城、を、
 と、所、を、ま、ま、の、定、め、て、八、田、城、の、楠、正、具、少、く、ひ、べ、。八、田、の、城、の、頼、り、ら、り、大、
 丈、の、雁、守、も、置、ら、る、べ、は、小、般、若、の、と、捨、て、ま、し、。新、く、災、出、来、ま、り、。船、に、の、
 城、を、攻、ん、と、て、大、軍、を、動、じ、た、ま、え、ん、ら、り、。八、田、に、城、小、雁、守、を、置、諸、城、は、
 通、路、を、断、截、玉、々、と、び、斬、般、若、の、災、あ、る、ま、じ、。奈、く、新、隊、部、を、ら、り、。
 と、練、り、空、ま、た、信、長、も、ま、ま、後、の、つ、も、な、り、と、思、ひ、も、船、に、の、城、を、
 此、さ、ま、ん、バ、予、驚、憤、散、ら、り、と、宣、ふ、よ、り、秀、吉、も、再、び、節、め、ま、ね、ら、せ、ま、
 然、ら、ま、く、八、田、城、を、雁、守、ら、り、こ、そ、肝、要、を、ま、。船、に、の、城、を、
 の、つ、く、八、田、に、雁、守、小、般、若、と、言、仕、ま、ら、り、小、然、が、と、て、佐、久、間、右、衛、門、
 左、衛、門、亮、が、五、十、余、人、を、遣、ま、り、。八、田、を、堅、固、小、雁、守、を、ま、り、本、陣、重、

て東より君の沖怒を掃くため。船江を殿とあがしめ、昨夜軍令
 を守らばして夜殿の爲小破られる。氏家安藤を河向へ向らせ、敗軍の
 罪を贖せ玉ふが道理小はらんと云出らる。小信長頼も、得心せらる。
 實も能こそ料理こそとて。彼兩人小指揮し、多ひ。船江の塔小馳向ひ
 一時小攻く踏死し。我殿は辱を言ぐべし。河内津路も、同萬五郎堀
 本大膳、依も氏家安藤を援助ぐ。余は面も陣、小止り、西守の隊は
 をよく守りて、兩軍をくわらざと、今出さるる小より、各準備し、競らる。
 勢都合五千余人、船江を當て攻進り。城下をく進るや、ひや、生か
 の恥辱を言ぐんり、純と、將率とも小心せし、喊をとり、鳥銃をばるべ
 幕を二をこし、小騎、取らんと、死力を振る、まめたり。井も當城、國司
 不知、隠居所のこ、見小察さされ、た右背門の旁、小大沼を繕じ

追手一旁平地小續き、攻便し、小似こども。塔高く、構深し、矢丸も
 多く貯へられ、烈しく防戦せし小より、進むた右、明く進む得を、攻便
 でぞ見へたり、氏家入道、大小怒り、遠塔をとり、臨し、得せん、他小
 面、向らまほし、方術こそあれ、斬くせよと、使率小指揮、近隣は
 在家を多くうち、壊ち、一石小取集、それ外、小柴埋草を多くあつめ、焼れ、
 七日の蚤天より、五千余人をこ、隊小部、一隊、少、竹葉を撃げ、
 正魁小進めて、矢丸を防、二の隊は、勢小、柴埋草を、構を
 埋めよと、構を、この隊は、勢小、顧小、瘞る、構を、跳越く、堀小、り、着
 攻投と、嘆き、声く、幕を、謀、如く、做果せ、五千余人、一同、小、塔
 際、を、進、倚、危や、遠、方、僅、目、前、攻、臨、さ、る、ぶ、り、ん、へ、り、し、城、中
 小、て、の、細、より、是、何、の、拳、動、小、些、も、拒、ま、さ、ず、知、ら、ぬ、振、を、在、り、し、が、進、を

般ハツ不ハツ提ハツ著ハツと得ハツと沈ハツ視ハツ時ハツ分ハツはしと遠ハツ隊ハツ形ハツ似ハツより一ハツ同ハツ小ハツ丈ハツ木ハツ丈
 石ハツと抛ハツ菟ハツく烈ハツ火ハツの像ハツく播ハツきききバ正ハツ魁ハツ能ハツ進ハツ云ハツ四ハツ五ハツ百ハツ人ハツ頭ハツと撃ハツれ
 背ハツと碎ハツききき足ハツと折ハツられて倒ハツ伏ハツすすじと見ハツたる响ハツ左ハツ右ハツの射
 窓ハツと吹ハツ雨ハツと鳥ハツ籠ハツきびく放ハツ散ハツし進ハツ心ハツのやとけきききき面ハツと向ハツ登ハツれ
 方ハツもさきき魁ハツ隊ハツの士ハツ一ハツ千ハツ餘ハツ人ハツかひをを飄ハツとせ死ハツ退ハツく安ハツ藤ハツ伊ハツ賀ハツ吉ハツ
 こまを思ハツく俺ハツ們ハツ遠ハツ城ハツを臨ハツさきんバ持ハツく甲ハツ斐ハツな死ハツ命ハツあり決ハツても
 捨ハツづれ命ハツなら城ハツ中ハツ小ハツ投ハツて斬ハツ死ハツせよと血ハツ眼ハツ小ハツなりて指ハツ揮ハツをれきも向ハツ方ハツ
 潮ハツも更ハツふじ徒ハツく大ハツ木ハツ丈ハツ石ハツ小ハツうち殺ハツさきんも朽ハツ憾ハツさ小ハツ只ハツ喊ハツの声ハツを
 鼓ハツをものも城ハツを睨ハツんで勅ハツ下ハツく氏ハツ家ハツも今ハツも殺ハツ方ハツき遠ハツ由ハツと本ハツ陣ハツへ
 江ハツ伸ハツと織ハツ田ハツ殿ハツあきと所ハツし怒ハツ髪ハツ盛ハツと衝ハツ破ハツむりの大ハツ言ハツあげ船ハツ江ハツ乃
 叔ハツ輩ハツいづまきバ厥ハツまで小ハツ剛ハツ勇ハツありたるぞや壁ハツバ矢ハツ物ハツ鬼ハツ神ハツ小ハツりせよやと攻ハツ

臨ハツを置ハツ登ハツきぞ新ハツ隊ハツを加ハツく攻ハツ起ハツよと云ハツ三ハツ千ハツ余ハツ騎ハツを加ハツ勢ハツし落
 船ハツ江ハツを攻ハツるといども昨日ハツの如ハツく勝ハツきし今日ハツも空ハツしく退ハツひて休ハツ息ハツ
 せこそ朽ハツ憾ハツなき遠ハツ响ハツ八ハツ回ハツの捕ハツハ船ハツ江ハツの後ハツ援ハツせきき思ハツと依ハツ久ハツ
 間ハツが懸ハツ守ハツ大ハツ軍ハツ小ハツて株ハツを蕞ハツく圍ハツし六ハツ容ハツ易ハツ小ハツ出ハツること備ハツをぞ去ハツき
 小ハツよりてまき落ハツび計ハツ畧ハツを工ハツまじし潜ハツり小ハツ熟ハツる一ハツ士ハツと操ハツ出ハツし汝ハツいふも
 方便ハツと長ハツ治ハツ城ハツ多ハツ暇ハツ初ハツ左ハツ京ハツ小ハツ對ハツ面ハツし此ハツ書ハツ翰ハツと得ハツと遠ハツ與ハツ返ハツ書ハツを
 こそて歸ハツるべしと口ハツ吐ハツ精ハツく親ハツ會ハツめ賈ハツ高ハツの俸ハツ小ハツ歩ハツ拾ハツく密ハツ小ハツ城ハツ中ハツを
 出ハツるるが遠ハツ者ハツん来ハツ膽ハツふとまき進ハツ雲ハツの陣ハツ不ハツと躲ハツ氣ハツもききやうくと出ハツ
 仍ハツとんく怪ハツしまききバ隊ハツ令ハツ疎ハツありと語ハツつべし
 捕ハツ再用ハツ謀ハツ策ハツ設ハツ依ハツ久ハツ間ハツ陣ハツ属ハツ同ハツ緒ハツ本ハツ陣ハツ
 蜈蚣ハツ百ハツ足ハツありといども蛇ハツの足ハツき小ハツ如ハツうととや依ハツ久ハツ間ハツが軍ハツを五ハツ千

余騎の的こを眼ありながら。八田珠中より出来し。一乞をりて漏せし。澤
發小朽憾もて次身あり。然れどに八田の使も難なく長瀉の城小列を
腹動た系小對面し。楠の書翰を遠興々もた系こをを披見せし。
小船江の軍中事急小其こをを救えんととととと。織田於大軍小舟
圍まを。救ひを去事うに。早く長瀉の本願寺門徒を。漸催使を。
船江あらび小當珠の後援を。頼入は目石山の上人も。漸加勢の
事を頼てより。願出たは。既小早速。漸書を賜は。その余の精く。這者小
漸所あるべし。とぞ書りたる。左系頼く。使小向ひ。汝石山へ。矣上し。決意小
漸發を兼所りしや。いろ小と同を。使の漢子。いろ小も石山へ。奉と。正具の書
翰を。とぞ書りて。漸加勢を。願ひ重せし。愛上人。不聽小が。い。これ石山
近き。の。漸門徒を。加勢小。とぞ。か。を。事。置。く。所。を。あ。ひ。と。お。り。し。候。す。

計も漏聞へ軍全く調ふまじ。依く長瀉の門徒を。りて。援を。命
出さ。ま。し。漸。書。は。と。好。く。ち。此。小。あり。と。出。り。たる。左。系。奉。取。口。を。頼。く。
澤。田。中。と。り。小。ま。地。の。門。徒。依。心。を。一。小。捕。を。援。け。船。江。を。救。ふ。べ。し。
遠。音。奉。走。せ。た。れ。び。美。大。法。頼。恩。を。う。へ。上。人。が。が。し。め。さ。く。條。を。石
山の。家。宰。小。同。頼。能。同。頼。源。より。の。奉。書。あり。腹。動。系。より。捕。を。と。
勢。別。の。頼。と。頼。し。ゆ。一。奉。目。小。親。く。も。信。せ。し。ゆ。從。令。捕。一。分。法。
恬。かり。とも。い。好。む。小。あら。ぬ。と。割。や。石。山。の。漸。派。あり。と。や。行。時。も。猶。豫。を
危。う。ら。む。と。速。く。門。徒。を。催。使。を。と。と。指。揮。ある。と。見。て。八。田。の。使。を。
い。よ。く。漸。加。勢。あ。る。べ。し。此。書。の。如。く。小。計。を。と。め。と。若。び。密。書。を。呈。出。を。
左。系。亮。こ。を。熱。候。し。と。ぞ。書。り。實。小。妙。絶。の。計。を。奉。り。懸。が。援。計。を。行。か。し。
と。て。長。時。小。長。瀉。の。街。へ。使。者。を。遣。道。場。坊。と。り。門。徒。の。首。領。小。左。の。

道場坊 桂瀬山
登幾き 楠正具
夜打の謀を
熟さむ



南無不可思議光



南無不可思議光
如来

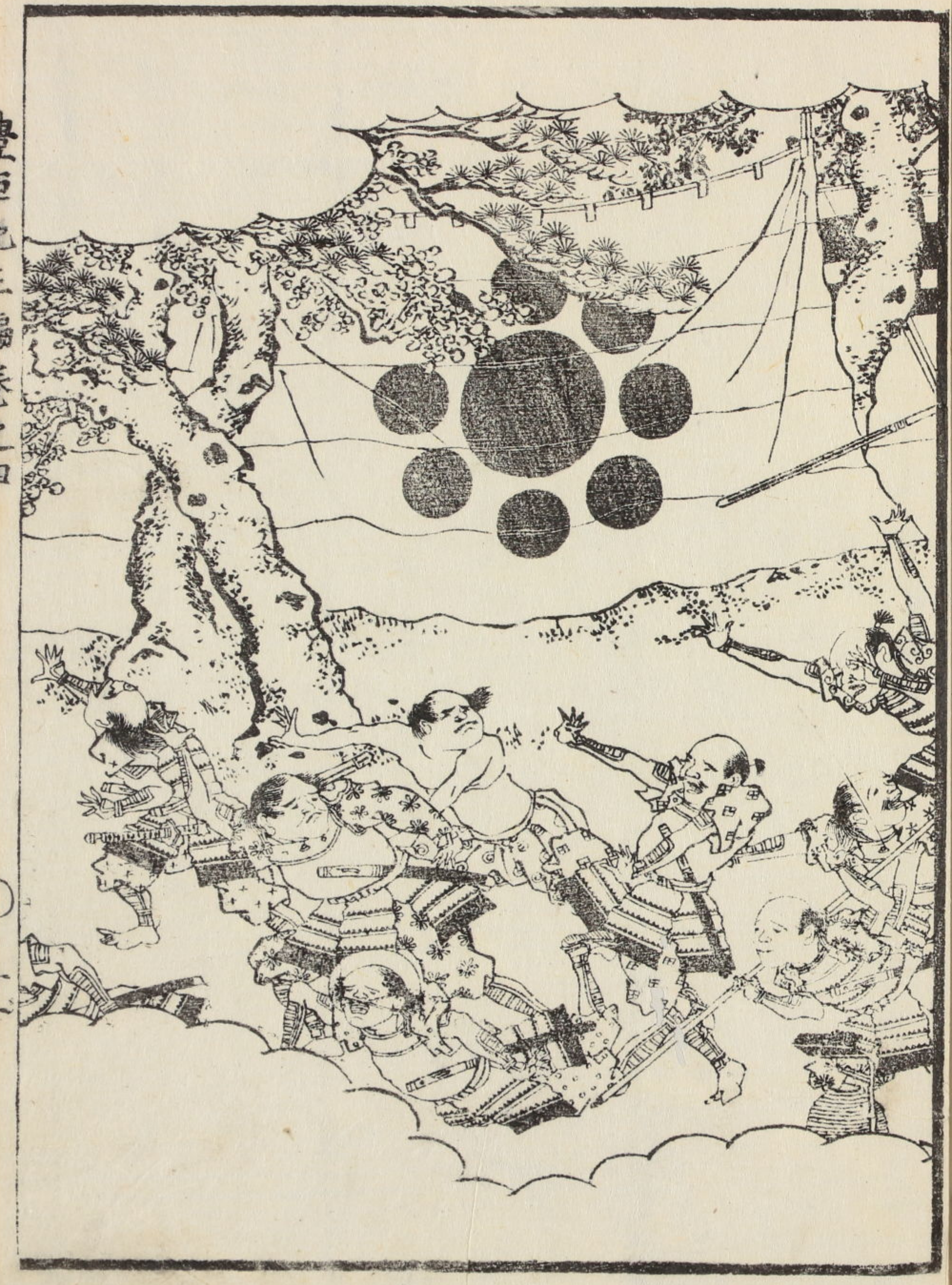
趣に申送り。近隣の門徒を僥倖しなくも我もくと馳集り。元時も
 遇ぬを際小一軍餘人小ぞ覽びり。原東こそ依の御民に東日小武勇
 と好むる由へ服部大少敏就三捕が教ふせし。一軍餘人を二隊小
 軍部一隊へ道場房を大將に命じ。南に不可思議光如來を奉りて
 大旗を推建させ。信長の本陣を桂瀬山小向せし。又一方へ服部
 大系免大將となりて。五十餘人同く九字名号に旗を推し八田の棟
 下小堅守せり。依久間の方へ進發。遠謀計を訊る小楠正具禰せり。
 澤土真守の風流を察し。本願寺の上人も。候より釋禱せし。時々
 吉原と通し。由へ石山の流溪もよく。おとす。下間頼純信が奉書
 とも。時小備書させり。然るに頼純大系免の實小上人の指揮と
 心得の容易播せし。其の圖き一向門徒の五十餘騎の道場房

小従多し。桂瀬山へ馳向ふ本陣の急士山上より。遠小ことを視却て
 他軍の自軍の語し。やと思ふ向ふ。中彼軍勢。本陣をく進せけるが
 直地小旗陰を休せさせり。大將分の輩をり。虎落の外小語。張屋
 へ揚列石山本願寺の門徒小て。徹田殿。天下静謐せし。小軍馬を
 敷され。條感嘆のあまり。且へ國恩を報ぜん。と漸加勢。信長の
 と。信徒が身小相應の攻口へ漸副へ賜るべし。と謂客より。信長こそと
 听し。あ。諸へ石山の顯如上人。予勇猛小恐怖し。影を退後せし。も
 のならん。然りとも。信徒小加勢を信んと。武門の恥辱。皆あり。信て
 攻口の隊へ副へを。所志も。信濃なる。陣見巡と。披垂し。く。と。疎小宿
 陣せよ。猶又用事ある。响の。法。法。と。宣ふ。と。道場房。兼所り。松
 信。信。本山。上人の。指揮。小。より。遙く。来り。い。の。法。を。穿。く。野。陣。は。り

まるの外圍をめぐり、和厚あり。石原小も亦是相應の攻口と、所指揮掃
 ろる。五千余人を引率し、八田は城下小趣きて、進を佐久間が陣小案
 内し、本願寺の指揮小あり。加勢のこめ小急りく、こほし同格の口出を、濱け
 是バ佐久間信盛去れと、所て、願の神妙の心願あり。然ども我陣軍多さ
 らふ不足なれば、加勢少の及ぶまじ。君の所中陣へ、もむらぐ、云、出せよと、中
 を彼勢然バ、我依一個のこめ、あふと、教多のそ士と、召供し、これバ
 佐久間殊小難義あり。所勢教日の所勤、労働あり。所疲も、いへ。鳥辭
 がましく、いへども、新率ひ、我隊のそ軍、教多戰場へ、向ふ、まじ、會お、あ
 有降、あ、り。交代て、守ら、せ、い、とも。愠心、い、事、へ、も、あ、ま、し、所、糾、め、る、所、の
 う、い、あ、ま、と、最、情、怙、氣、小、細、容、た、れ、バ、佐、久、間、が、公、輩、遠、日、来、安、雨、と、い、く、軍、も

せ、休、息、せ、た、あ、と、思、ふ、機、會、あり。遠、加、勢、を、そ、壁、幸、あり。と、佐、久、間、を
 初、め、り、小、より。信、盛、素、より、石、山、よ、人、を、信、任、し、ん、ま、は、疑、ひ、も、せ、く、こ、も、衆、小
 石、陣、さ、を、置、こ、う、り、る。遠、响、楠、正、具、の、寨、樓、小、登、て、眺、と、つ、ん、ま、は、佐、久、間
 が、陣、の、面、小、あ、ら、う、て、南、を、不、可、思、議、光、如、來、と、託、書、し、又、旗、を、遠、く、こ
 を、視、く、備、の、謀、略、成、就、せ、り。今、宵、使、教、殿、と、て、佐、久、間、が、勢、を、進、ひ、持、
 こ、も、勢、ひ、小、本、陣、ま、も、若、投、て、遠、懸、小、準備、し、猶、ま、し、進、を、共、百、余
 人、甲、兵、の、か、ど、小、を、釋、つ、ら、を、佐、久、間、が、陣、を、襲、と、ん、と、時、刻、を、待、て、動
 ころ。備、ま、し、進、を、佐、久、間、が、陣、中、に、彼、部、が、隊、の、公、軍、佐、久、間、が、兵、士、小、進、後、
 く、さ、ま、く、二、疲、ま、た、り、と、ん、小、卒、率、の、影、隊、あり。教、を、佐、春、と、承、願、し、
 最、一、く、守、り、ら、と、ん、と、親、切、し、重、を、お、し、り。何、も、教、び、一、禮、を、無、ら、六、誓、時
 時、と、ん、と、持、揚、く、く、と、お、た、り、し、會、一、杯、小、甲、曹、統、弁、後、陣、小、投、て、休

楠正具
佐久間信盛の
陣中へ
夜殿す



息しり。賊の方僅ら十分小成果せり。心小ほび定めて捕正具
 我師が遠陣より来りし傳の暗号の旗少く知らん。念の落小
 ちて以希来りし使士を呼出。始末を告ぐ。八田陣中へ帰しり
 正具使士と云ふ賞員し。恩賞計財を多く取。落び夜殿の暗号を
 て。賊勢が許へ括違。其後珠を呼集め心構の平和を傳へて夜
 深を待居る。既小治せし時刻もあつぬ。正具五石の重さを
 率ひ捕小佐久間が陣小推進せ。暗号の一砲を放つや。や。喊せり
 陣中へ要地小致投。此時佐久間が陣中へ入。賊勢が隊
 の軍も六捕かを引誘。案内知る。公麻く。総横を破る。せ
 廻り。夜殿を踏ぐ。体小を。よ。と。下。と。混。乱。さ。せ。り。佐久間信盛大
 小愕き。加勢を共小防。んと。立。出。見。ども。既。已。小。陣。中。都。て。敵。と。あり。四。方

八面より鳥銃を放。賊を合。せ。を。二。を。二。を。二。小。攻。起。り。は。今。こ。そ。加
 勢小来りし。石山門待小防せん。と。尋。ぬ。ま。と。更。小。入。へ。ぬ。も。道。程。
 其。外。も。形。暗。深。る。素。仇。武。者。の。小。一。々。用。小。達。は。九。軍。を。な。し。佐。久。間
 も。勇。僅。に。拒。抗。小。樹。多。く。陣。せ。り。も。兼。走。り。り。ま。は。之。橋。本。橋。の。兩。人。も
 慌。忙。と。殺。ま。る。捕。取。り。諸。勢。小。括。揮。ひ。し。短。陣。急。小。追。捲。り。意。言。平
 變。な。れ。敵。多。う。遠。陣。病。軍。を。守。禦。し。小。信。長。の。陣。を。退。極。べ。し。勵
 め。や。懋。め。と。守。り。を。く。捕。獲。敵。一。隊。小。あり。息。も。迷。せ。を。退。寇。た。り。
 佐久間ハ陣を撥出。隊伍を整へ。ち。して。後。敵。を。防。つ。た。り。と。思。ひ
 小。退。来。り。敵。の。詰。ま。り。こと。山。の。顔。を。像。く。た。れ。ば。瞬。際。も。あ。ら。な。し。て。
 遂。小。植。頼。の。本。陣。を。喘。く。推。着。り。ま。り。捕。此。と。猶。心。八。田。の。居。城。を
 大。事。あり。軍。八。十。一。分。の。傷。た。れ。ば。ち。や。邊。退。せ。し。り。ま。り。に。岩。を。打。こ。り

波瀾の如く。駿馬もんで退去せり。儲まゝ桂瀬山へ到りて。長門門徒の五千余騎ハ信長陣の障小隊伍疎小勸へりしか。今宵秋殿は暗号を所本陣の休と察し小細の騷かの益士達一帯討もまはつる。松江の加勢小二千余人を分て遣へ。又西方の攻に少の氏家安藤依の威ドつて小惣ありて遊軍よりし本下藤吉身を當向する迄向本下惱まされバ君を誦めく東をせり。斯ての由より新本陣漸を人小くおとしまを切くハ小居留まらたやと言出するを信長も今日船江と攻あさん小惣をまは終の向あり。此も氣悩ふ陣ありと今小本下力なく西方の隊へ趣きまは。本陣今も四千余人小過ざらり。其数も既下添彌も。此は初小成へこれハ四回之陣下遣へる。道場房々所候の士卒を返り被取の首尾の斬くと楠腹部も時とも小勝軍

の號嘆と精々詰り。はつ漸助勢一玉ととんバ。備ふまじとまらふより。五千の益士預てより。秋殿の準備ハ調へり。然るハ暮ると暗号を知らし。本陣の之方より。遠無小威を吐とつり。鳥銃聲も入せり。本分外小惣強き。この何事と起出く。防がんとおられと。五千餘人の門徒勢。四方より稠投く。楠七郎左衛門正具らに在り織田信長小つん泰せんと。叫をまゝく。次くはまは陣中いよく顛倒せ。慌忙くまが申小も近士扈從の小糸達柄杓掲げ。逃出夜殿の益士小治里合遠を専途と戦へども。思ひまらざる事とゆひ楠は名目所怖く。まらぐおも防得ざる。信長又小怒り玉ひ。まらぐら次く出んとまらる。明智光秀押止免。こまは定めて本願寺より。加勢と稱して来りし軍の夜殿へ。まらふていせん。正具とゆひの備あり。軍小自益の氣

信長近侍の
少輩軍
臂力を
場々
道場坊体の
夜殿を防ぐ



と惑ふも謀計とこそ知らまじき。然るも大勢亂入一たび若小の
 危急を避さるるも強く初め急せられれば信長も死ねば
 習と名臭一山は南へ退陣一玉ふ先秀のまへに心算しと執返して
 多士と願はし防戦時を福と願ふ八田を雁柄一依久間が敗軍素
 乳は僅少く息をも次得を散く小連来る夜殿さしける門徒の軍
 勢佐久間の勢を見るよりも。備こそ八田の敵殿が退陣しと見え
 知つたは態と用ひく揮通をせ始く活くる情柄なり。本陣の中へ
 逃指し遠小も夜殿は入らざれば再び強き逃出んとて返せられ
 よ。門徒の軍を前後と單と割さしめりと攻起す小依久間の多士は
 素乳あり。敵の軍勢の元満より。遁は出づれば活はし。調射てありらる。決
 ても遁れぬ命とやかりひん極死狂小斬て日は不雷さる。一敵

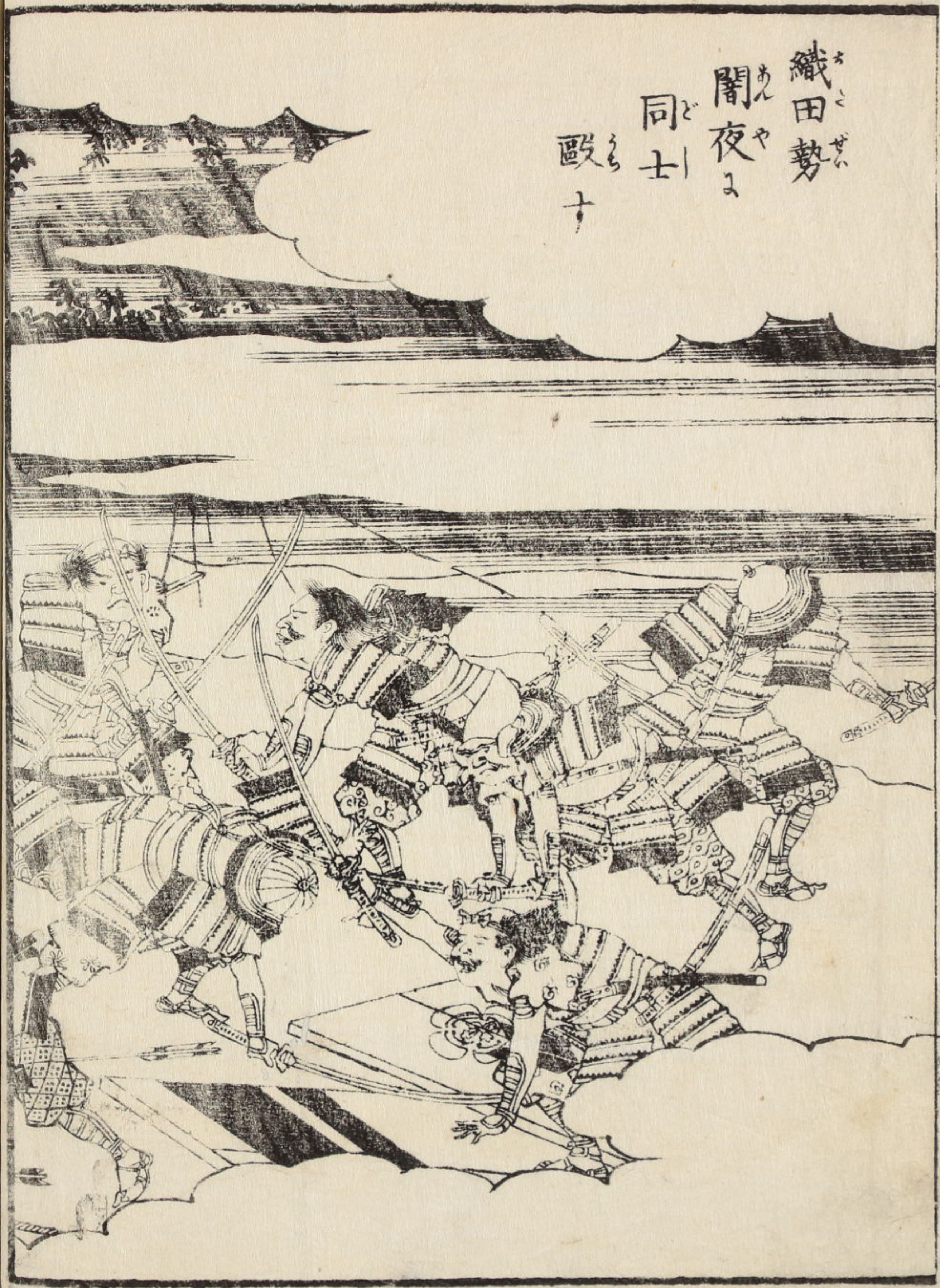
味方を見分ちし。同士殿してぞ担起を長崎のこまを視る。
 敵ハ十分破まるとそ夜の曉ぬ間小連取つて。自軍は勝を一不不運
 め速くも軍を帰し。陣中こそと些も斬つて。陣中も陣中も
 東方紅の色づれたる頃四方の鐵田堀本陣へ敵殿の指す大將の行方
 知まじと油汰ありし。諸士取りはる。敵を待はくせうも捨く。
 桂瀬山へ馳来る。まると陣中へ明智と頼依久間の倫軍一不不集
 り。戦死員癩を檢詰小敵と思ひ斬依も。悉く自軍の殺棄す。
 敵も一個も取らざる。一奉を握り。敵を斬断せし。怒もと令更替なり。一敵
 を遠くとも方ありし。

城公礼坊末下高論属城攻評定

靈運が殿ハ山小登る小齒を後小し下り時を歯を若小と昇平風



織田勢
闇夜
同士
毆十



流の隠士を新法如き準備ありて。山坂の難を防ぐ小巧と佐久間
 敗まらぬおどや。是をバ夜殿の發動小攻口の諸將も愕然本陣
 榎瀬山へ馳集る。こま小うて大河内の攻口。之方空虚と有りつ。城
 云沈視し。時こそ兼と撃て出進。是は結構。柵鹿垣を撃破。里
 陣くせよく礼防せし。と西方の陣をう。柵木一か抜こと偶を。亦く
 城を教百人。懸る。しも。此一方の文將へ佐久間安房氏家
 倭小。交付し守。し。本陣の軟殿と所。とも一率を。と
 も。定て。礼防せん。準備さ。あ。とて。竹中清世
 小陣。せ。月。自。三十余人を率。列。本陣へ馳。行
 りの。小。進兵の陣。と。西方へも攻。し。が
 竹中守。預。二千余。隊。小。ち。を。備。待。る。

城を遠陣小推。柵を破る事。置。小。撃。例。され。
 或。小。休。員。死。人。多。り。新。ハ。愧。し。と。返。下。
 早々。城。中。通。投。る。中。重。治。殿。提。多。く。城。を。把。り。し。陣。へ
 遣。一。信。長。挂。瀬。山。へ。帰。陣。す。是。を。漸。覽。あ。せ。し。新。氣。小
 宣。自。軍。の。軍。勢。小。勢。と。癡。を。破。る。軍。多。く。款。士。を。討。り。し。
 一。個。も。な。く。積。八。田。を。堅。守。る。佐。久。間。の。敗。走。編。小。絶。る。船。江。の。進。軍
 も。小。謀。ら。ま。て。退。返。し。東。南。小。の。柵。を。破。ら。し。謂。る。り。ぬ。れ。ま
 中。小。本。陣。中。の。敗。走。を。款。を。撃。事。と。沐。妙。み。り。奇。代。り。と。出。遣。
 て。落。び。宮。入。り。愕。ま。し。石。山。の。門。徒。あり。當。國。采。均。分。して。後。在。地。小。核
 州。一。進。發。し。石。山。を。攻。陥。し。頭。如。父。子。を。捕。捕。門。徒。を。悉。く。殺。滅。し。
 遠。背。憤。を。散。た。し。と。罵。り。る。其。機。會。も。亦。下。所。不。失。上。り。

大將は急めり。直を賈しせり。渠は歌歌の狼籍は殊小憎く
 此ども是は決りて石山と人の指揮小あむを夜殿の計略深密なる緯
 長海門徒の軍軍が勿く懸ぶ不小わらむ。必や八田の楠が謀設けし小
 相違あるまじ。後援八田の懸守ある。佐久間が陣へも門徒の加勢。
 急を急せし。其夜八田より殿出せし事。殊小も楠が謀りたる暗号は謂
 をも知れり。殊小當陣と殿する門徒が楠正具と号し小て石
 山の指揮あると正具自軍へ知らせあり。此上ハ唯小本城を落し
 國中平均をとりておがしめり。船江の城も只今急小攻接せ
 る多ふ小も及なむ。大河内さへ落城なきも余は枝城のりし
 くれづれた右洲心を決し。多小本城を陥されしと稟を信長
 謂小やかす。本城を陥せん事ハ勿漏なきとも動ハ八田船江計設

どりて。傍り。号を素にみたるも亦やと命を本下と事ハ再懸守
 とを。單小本城小向を免る。と稟を信長殿ハ討し。五千の
 小て懸守て。昨夜の如く殿を。渠を隊固く懸守人少一万余
 人もさくん。命を本下推返して。八田懸守の急を。一万余
 人。障あり。小臣の自懸。五五百人も遣さ。事申す。船江の城へも千余
 人。つら。と。緯。用。と。稟。を。小。信。長。い。く。不。審。殿。を。覚。束。形。中
 州あり。思。れ。あ。り。と。宣。ふ。と。本。下。秀。吉。腹。練。く。君。小。も。知。り。め。さ。り。如。く。軍
 の。通。ハ。慮。と。實。の。二。ツ。を。殊。機。應。変。小。用。あり。と。し。と。せ。り。急。ハ。八。田
 懸。守。五。千。余。騎。あり。圍。し。時。楠。の。下。の。小。懸。中。佐。久。間。の。陣。を。破。り
 小。懸。守。を。り。て。自。軍。以。實。小。當。り。し。り。旁。僅。も。五。百。の。急。を。り。て。
 八田の懸守を懸守するに慮をりて。實小あむあり。原集正具智あ

源く慎く多き武士みれば大軍倣損し後一獲に斃して向ふ軍を
 尋常の如く思ふまじ。必定計畧ありと心得決して数手出申はし。是
 則虚實変化を活用する。各家の極秘不傳と謂て居りて深し。六
 信長源く感得せし。然らばよろしく料理べしと評さるる由。其後吉野
 西方の陣小ら返す。松原内通永江津之堅を隊將をりし。方便を仔細小
 索合め五百余人をさし。添く八田の雁守小遣えされ。熊江の城へも増
 九島たすつと大将を色し。一千余人を當向らる。備本城の攻にハ細江如く小
 諸將を對向く。柵鹿垣を堅固不傳し。又西方ハ佐久間安藤氏家
 の諸將を細のり。小隊部せられ。本下ハ終かハ遊軍こして留めなすし。
 備本城を臨さる。と再軍議を傳ふ。是ころ。响小羽留十谷清光秀
 進ま出く。粟とせり。いふ小も大河内などの要崖に城を世と小多くハいほし。

割累代相漢は國を是ハ公糧支九の多きことハ。稲葉如の如き諸將と
 少く及ぶ取小あきと。忽れ日々鳥銃の競合もま。を蓋あり。小長
 竹謙不便冒のり。ハ設試粟をへ。まづ城中に勇士を招かん。備をこ
 招き小遣せせん。敵は手を借く。是と謀をへ。と語を本下膝を
 進め。よく心を心属せし。ま。工事を燃練せられ。と語を小光秀殿ハ
 心得く。はり。い。料理粟をべし。と。响陣中小返り。腹心の居奥田
 久右衛門と評せり。謀計を粟合め。精をへ。と。遣り。

野呂た近前操智波謀馬光秀謀過

愚人の後を見。蜂蝎子の血をり。今が如しと讀りし。を細く。是ハおひ
 當ころ。取ハま。執人と。輪。小當。城。小島の家人。小野呂た。と。り。者
 あり。欺心。源く。と。財宝。小目。を。属。時。ハ。君。又。道。と。も。忘。新。と。る。古。今

是は双の倭討あり。明智は名家奥田久右衛門と云。一面の交ありしが。
 是は原竟に方便ありとて。光秀が多くの駐室を出一。これせりて新
 々。野呂左とせし荷擔らるる下とに属らるる久右衛門。密書をうけ
 把一走小幡若へ到りたり。茲に佐久間が持場をば奥田佐久間が
 對面して主人光秀が口吐せ演る後密書を筆小括り野呂左が
 陣中へ射込ごう左とせし老黨これを拾ふ密書を一人へ遞與るるを
 左近のふやと披るるに物の交り別後の疎情を書記。其底書
 小の當城の籠居始終なく慥ひに。待小戦死せしと云う織田家
 へ降参はし。今へ佐長は古今の名將あり。後くは必定天下の武士の棟
 梁と云へ。早く心を傾け。後榮を計り至り。是下壹人のとる
 らせ同意の個々を荷擔らるる。自軍小降参せしるる。當座の恩賞

増大るる。乃新もる兼織田家小仕へ謀の外なる優福あり。往日の好
 とありが故小是下とも安樂小似縁せし。新の要し進むるあり。委細
 の氣に對面の時を起し。いと書記より。左近の書を讀了り。懇々と
 院吟み。發もも奥田が勅り。佐長小降参せし。遠身は利あり。を
 思ひ極め。その取らるる返書と調記。奥田が謀へ射込ごう久右衛門
 取らるる間見えし。小余は趣悉く理り當りて覺一作。小予も願てより。厭
 る。務めども便るる方なれり。後小日は身の上の安危を考へ心も
 心小任せたり。今日是小下は懸書を得。園部小炬燈を得るるが如く。
 漸芳志ちうごら急ぐ。是は小信く漸教勅の如く。同志を招き。而も
 づく。以。然るが。漸勅の条是下一個の漸料理小や。且。織田殿も
 知。め。を。小。や。兼。所。の。了。音。を。記。し。り。奥。田。由。比。子。取。て。返。し。一。人。小



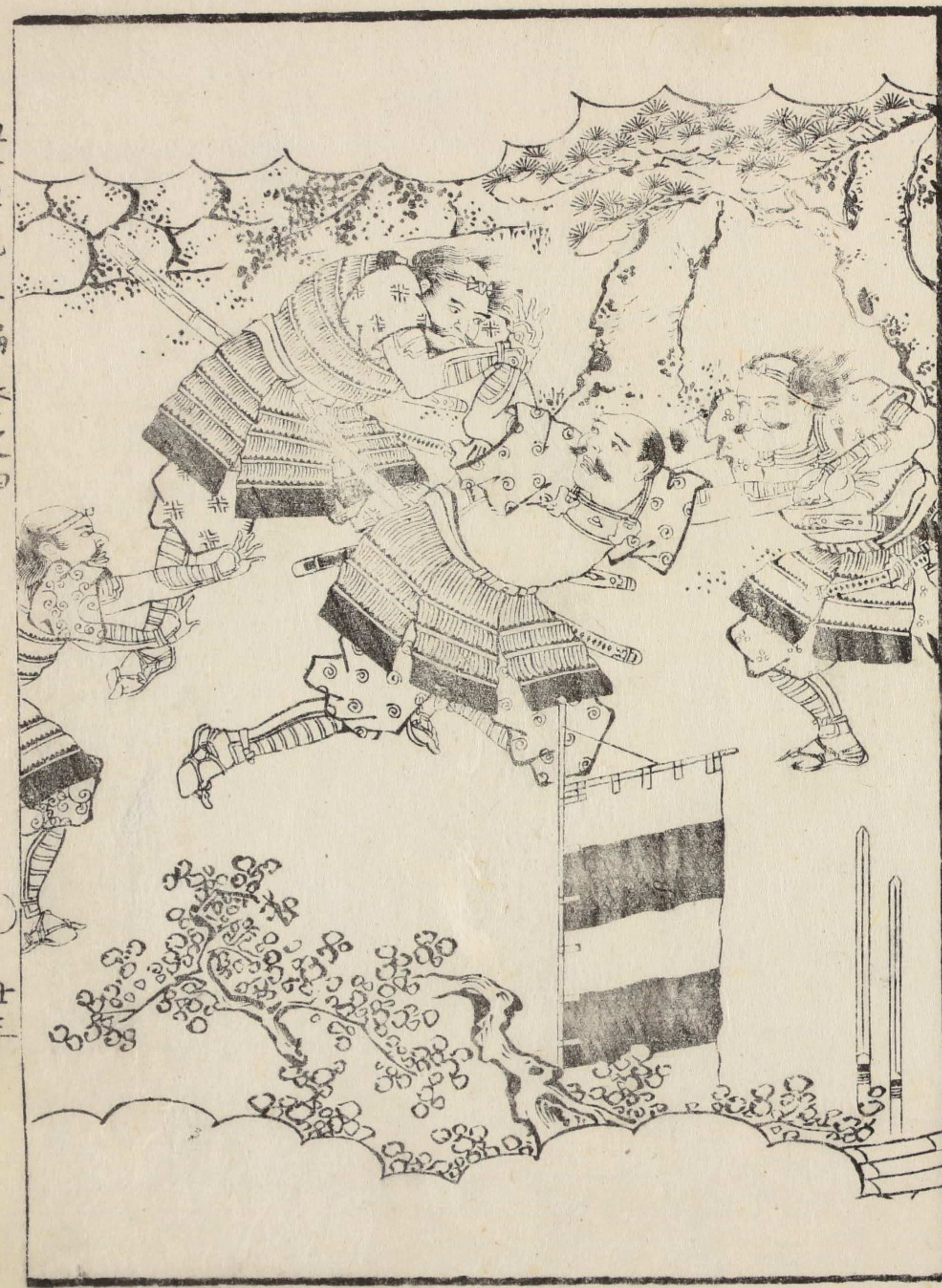
光秀與田
 左近の野呂
 と温
 心

こまをいせし六光秀大長收なり。急死奉書と記傳く。磯田殿の内
 意をいし。奥田小志をいし。遠典く。六再び蜂谷子利に十年書よ。私の手
 翰を添敷多の金子の海も小。た近が群へ贈遣す。こま小愈心違入
 く。添く奥田を情し。六寂く。射儀も小も及む。密小使者を往來
 させ。た近幸を謀む。とある人かと。初引磯田家へ。陸奥の纏頭小せを
 やと。展轉思案。な。ろ。が。思當く。疎の疎なる。山女。た馬助。と。初め。ろ。
 左馬助。心中。小。備。ハ。た。近。面。敵。小。通。意。し。我。も。小。引。入。き。ん。と。さ。る。心。儀
 め。る。曲。者。ろ。と。内。心。思。ま。と。色。少。い。出。さ。む。備。く。ろ。ら。初。び。備。く。ろ。よ。く。い。ろ。
 初めらさ。ろ。新て。小。難。小。便。り。て。降。らん。方。便。あり。や。と。問。れ。て。た。を
 その。方。便。こ。そ。遠。な。れ。と。明。智。が。奉。書。を。見。せ。ら。ま。ら。た。ろ。助。ま。ら。ろ。
 初。び。新。う。方。便。の。あ。る。上。へ。我。も。こ。同。志。を。初。ま。ら。ん。信。ら。ま。ま。と。

いふより。た近こまを實と心得奉書せり。て山女。小。遠。典。ろ。こ。そ。を
 係。ろ。と。左。馬。助。の。水。條。の。書。帖。を。襟。度。小。し。車。地。小。本。九。へ。奉。上。し。野。呂
 た。と。と。運。意。を。改。望。敵。小。陣。中。へ。通。し。合。せ。形。の。如。し。と。書。帖。を。披。看。
 早く。添。を。加。へ。む。ん。六。禍。災。目。前。ろ。ろ。と。重。ま。ら。よ。う。て。諸。士。と。評。議。し。
 た。と。を。捕。束。す。べ。し。山。女。小。下。群。あり。ろ。直。地。小。野。呂。が。陣。不。小。利。に。漸
 同志。と。お。擡。ら。ろ。ろ。是。の。荷。擡。人。の。別。人。あり。む。玉。井。名。新。村。本。集。十。人
 の。多。人。あり。執。儀。も。是。下。小。對。面。し。て。よ。く。添。を。ま。ら。ん。と。望。む。を。い。し。登。く。来。り。く
 添。と。ま。ら。ん。と。い。ふ。と。た。近。ハ。誠。と。かり。ひ。た。馬。助。と。同。道。し。陣。取。を。出。く。小。九。は
 星。堡。を。右。へ。過。り。响。敷。多。の。そ。と。先。先。蒐。り。骨。地。小。た。近。を。擡。提。映。小。九
 一。擡。起。由。り。拷。問。小。も。置。成。して。早。速。首。を。刎。ら。ろ。ろ。の。响。島。屋。尾。石。屋。吉
 國。司。小。若。く。重。ま。ら。ろ。野。呂。が。敵。小。合。時。せ。し。と。方。便。と。な。り。敵。を。毆



一語の奸邪頭きて
野呂左近無計
誅小陷



謀のいあり。斯くせたまふと勅めし。諸將も是をよしとて。まふ撥と
 ぞみたり。此に此明智光秀ハ野呂が言伝を待煩て。屢城中を
 窺ひまらる。漸しとた迫グ許より書翰ありぬと奥田が告ふ。た
 や右と用封をま。同士の族を彼此を撥らひ。早速降参はる
 まつん。然らぐらす功多くて。参陣殆面目なれま。小子の持門より
 漸勢を引投。蜂谷の一宮を。漸し小入とく。おし。依之。漸勢を志
 のびや。小當遣さ。賜も。小子。漸勢の功。勲。城内の引導
 つら。つらんと。野呂が筆。應ふよく。偽書。如。然。小記。得。光秀
 視て。大小。勲。ひ。急。信。長。の。漸。小。出。命。の。由。を。云。仕。也。漸。勢
 を。り。て。蜂。谷。小。遣。さ。ま。ん。事。を。望。ま。け。る。响。小。末。下。知。智。小。向。ひ。足。下
 の。計。没。け。し。ま。ま。び。疎。ぬ。る。傳。ハ。あ。る。ま。じ。ら。ま。ま。も。新。疑。惑。の。而。あ。り。た。と

同志と。の。撥。ら。り。て。降。参。の。事。實。あ。ら。ま。も。人。質。を。送。遣。し。思。ハ。然
 らん。侍。士。も。使。節。を。遣。つ。た。疑。あ。る。小。取。さ。り。て。書。翰。の。ハ。不。審。尤
 勲。う。ら。ま。と。麻。忽。小。軍。勢。を。遣。て。され。ま。ま。く。漸。思。意。あ。ら。ま。と。云。ふ。と
 小。信。長。も。是。小。取。の。人。質。あ。ら。ま。後。小。軍。勢。を。出。さんと。宣。ひ。ま。ま。の。如
 智。朽。憾。く。ハ。あ。り。ま。も。本。下。が。諫。も。理。お。ま。ま。の。人。質。を。捕。得。人。質。を
 左。近。が。考。へ。云。遣。ら。る。小。城。中。案。小。相。違。や。儲。へ。遠。方。の。計。候。満。一。ハ
 然。ら。く。ま。も。翰。を。致。ひ。つ。ら。傳。り。が。た。信。長。と。遠。所。嘗。て。通。言。せ。ま。ま
 光。秀。よく。賛。賜。て。依。久。間。信。盛。の。一。隊。を。荷。撥。ら。ひ。自。懸。五。百。と。打
 混。て。蜂。谷。を。攻。臨。さんと。密。小。使。更。か。り。ま。ま。依。久。間。信。盛。と。の。熟。意
 あり。同。じ。り。て。接。合。し。た。れ。が。光。秀。大。小。うち。執。び。ま。ま。心。懸。小。進。出
 蜂。谷。より。攻。登。り。一。の。持。門。小。取。と。推。進。野。呂。た。を。小。討。面。せ。んと



山本左馬助明智光秀と
計り味淵人欺投る人といふ



豊臣前記三巻之四

四

書信ける。响中、小の既、不謀計相違をせしを、知く持場を固めり。
 由（方儀光秀が進つて見え。山か玉井、俣を松丹とむ、火鳴を信光
 へ待らししが、進まざるを、向引よ。一時小畑、久末、石と抛、鬼く戦
 ひ、中、小も山か左馬助、進まば、膝を拗ぎ、和と與へ、笑へたる。左
 を、織と振出し。槍の鋒、夫、小病、重き、寒、株の上より、拵出し。た、迫、不、對、面、し
 玉（と、響の、株中、掌、拍て、一、夜、小、虫と、笑ひ、一、夜、光、秀、こ、是、小、強、こ、し
 奥、田、を、呼、ん、く、見、せ、し、む、ろ、小、た、を、織、小、相、違、を、け、し、バ、諸、の、意、味、か
 顯、し、て、謀、せ、し、道、し、と、覺、へ、し、う。勢、く、い、い、う、小、攻、り、と、も、冷、か、う、ら、ん、小、と、思、ひ
 迫、り、馳、奔、を、催、め、り、率、退、れ、本、陣、へ、來、り、と。而、月、が、げ、小、を、出、さ、し、小、を
 信、長、心、中、あ、ま、り、さ、び、秀、吉、が、軍、慮、を、感、佩、せ、ら、し、且、又、羽、智、の、恥、辱、を
 解、う、ん、と、漸、傍、を、く、長、侍、の、多、い、殿、や、う、の、危、急、小、馳、向、ひ、了、得、の、方

ら、是、を、こ、そ、致、意、を、換、げ、を、選、了、し、る、を、尋、常、の、舉、動、ら、ん、大、小、敗、軍、を、こ、
 う、り、ら、ん、と、宣、ふ、を、世、小、背、が、こ、う、り、け、る、ゆ、え、と、も、ろ、り

繪本豊臣勲功記之編巻之四終

